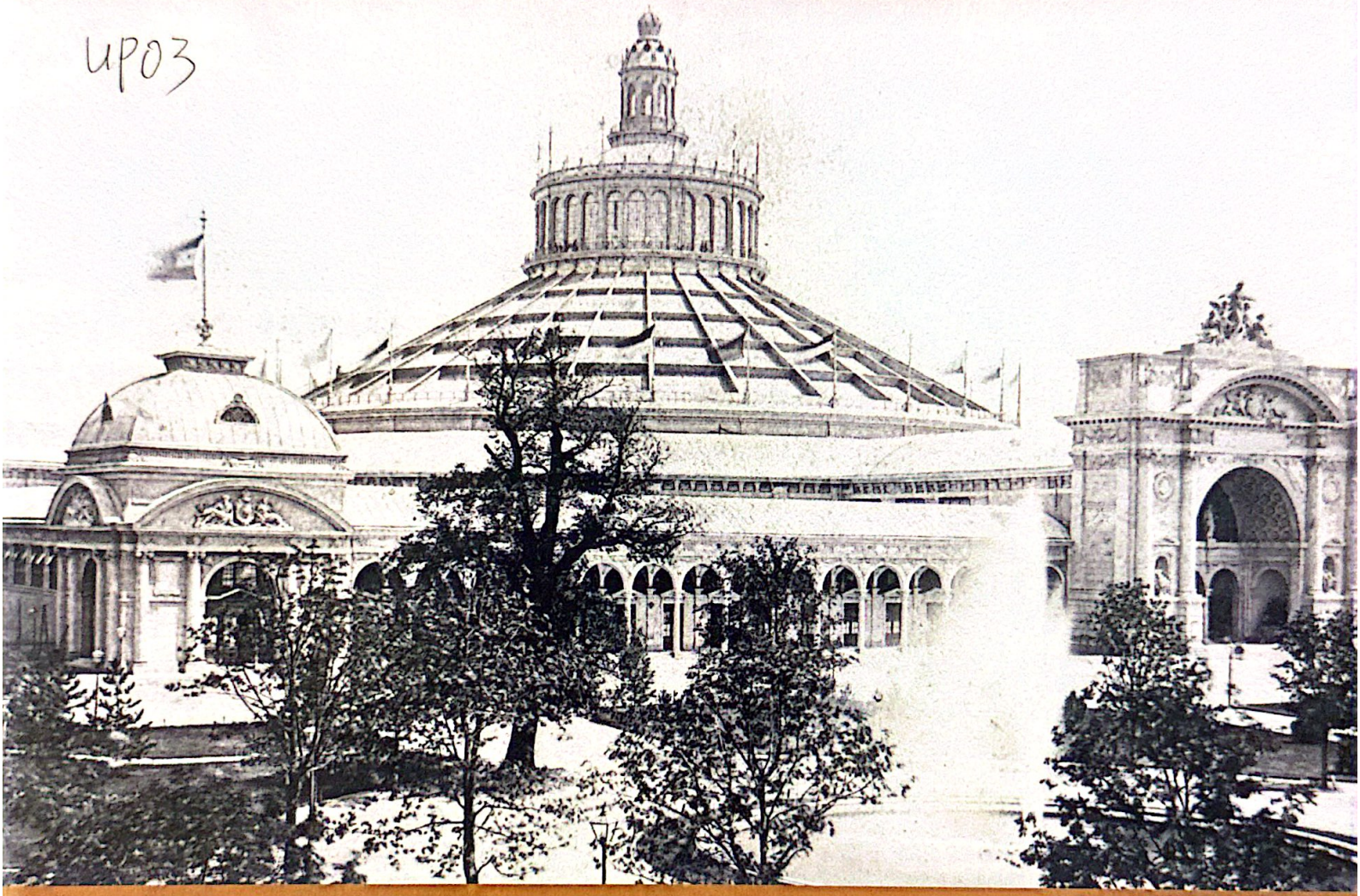
アヌココロ アイヌ イコロマケンル ソンコ

アヌアヌ

国立アイヌ民族博物館ニュースレター

NATIONAL AINU MUSEUM
ANUANU
020
2025.6

UP03



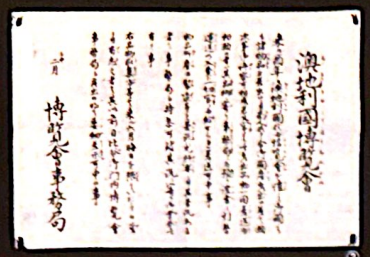
ウィーン万国博覧会 会場写真（部分）
東京国立博物館所蔵
Image: TNM Image Archives

ドイツ・
ベルリンに渡った
資料が約150年ぶりに
北海道に里帰り！
詳しくは
2ページへ！

国立アイヌ民族博物館 第10回特別展示
開館5周年記念

ウィーン万国博覧会と アイヌ・コレクション

シアター新作公開のご案内
博物館Pickup!
見て見て!園内サイン⑧
調査研究最前線⑬
国立アイヌ民族博物館からのお知らせ
ウポポイってこんなとこ⑰

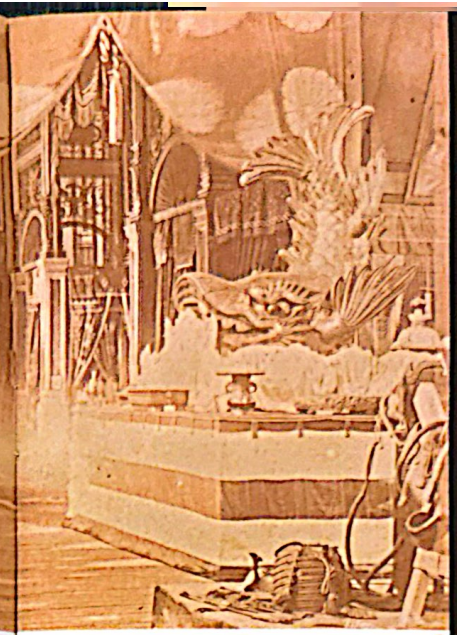


1 ウィーン万国博覧会

ウィーン万国博覧会は、1873年5月1日から11月2日までの半年間にわたり、オーストリア・ハンガリー帝国の首都ウィーンで開催されました。日本が初めて公式に参加した万国博覧会です。明治政府は、博覧会参加にあわせて全国から資料を集めました。アイヌ資料も北海道における「国有」の物産として体系的に収集されました。

2 ウィーン万国博覧会の系譜
—日本の博覧会と博物館のはじまり—

ウィーン万国博覧会参加の目的に、国内における学芸進歩のための日本初の博物館構想もありました。そこには、江戸時代に神岡内で品物を持ち寄り品評する「物産会」から、国家が「モノを集める」物産会（博覧会）へという系譜が見られます。そして、後の恒久的な展示施設としての博物館へとつながっていきます。



国立アイヌ民族博物館 第10回特別展示 開館5周年記念

ウィーン万国博覧会とアイヌ・コレクション

AINU COLLECTION AT THE VIENNA WORLD EXPOSITION OF 1873

観覧料無料

前期 2025 7.5 SAT. - 8.31 SUN.

後期 2025 9.13 SAT. - 11.16 SUN.

国立アイヌ民族博物館 特別展示室

休館日●毎週月曜日（祝日または休日の場合は翌日以降の平日）
※8/12（火）、9/16（火）、9/22（月）は開館、9/24（水）は休館

【主催】国立アイヌ民族博物館
【後援】公益社団法人北海道アイヌ協会、ドイツ連邦共和国大使館、オーストリア大使館
【特別協力】東京国立博物館
【協力】ベルリン国立博物館群民族学博物館、奈良国立博物館、石川県九谷焼美術館、石川県立歴史博物館、北海道立文書館、あま市七宝焼アートヴィレッジ、江別市教育委員会、市立函館博物館、古小牧市美術博物館、福岡市博物館、一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会、一般財団法人西陣織物館、渋沢史料館、北海道大学附属図書館、有田ポーセリンパーク、全日本空輸株式会社、中西出版株式会社、ハウステンボス美術館、関口忠相（日本シーボルト協会会長）

3 ウィーン万国博覧会の前夜
—アイヌ・コレクションからみる博覧会への出品—

江戸の知識人の好古趣味としてはじまったアイヌ・コレクションは、ウィーン万国博覧会をきっかけに、北海道や樺太、千島南部など地域性、生活用具の組合せを意識した体系的な収集へと変化していきました。ウィーン万博を起点として、「見せる」ことを意識した「伝統的なアイヌ文化」のパッケージがつくられていきます。

4 ウィーン万国博覧会のあと
—樺太千島交換条約とアイヌ・コレクション—

1875年、明治政府とロシアは樺太千島交換条約を調印しました。これにより、両国の間で国境が決められ、そこに居住していたアイヌ民族は劇的な変化を強いられました。国境画定の過程で、アイヌを含む北方民族のコレクションが形成され、博物場などで陳列されていきました。

①日本館内部の様子／東京国立博物館所蔵*
②澳地利国博覧会（出品物の募集広告）／渋沢史料館所蔵
③色絵金彩婦人図皿／東京国立博物館所蔵*
④青地色絵日本風俗図扁壺／東京国立博物館所蔵*
⑤雛甲製鳥籠／東京国立博物館所蔵*
⑥古今珍物集覧／当館蔵
⑦煙草入れ（斜里、平助作）／東京国立博物館所蔵*
⑧小刀／東京国立博物館所蔵*
⑨木綿衣（アイヌの志村弥十郎が着用）／東京国立博物館所蔵*
⑩荷物用犬ぞり（模型）（カムチャダール）／市立函館博物館蔵
⑪夏用衣服（獣皮）（カムチャダール）／市立函館博物館蔵

*①③④⑤⑦⑨ Image：TNM Image Archives

詳しくは国立アイヌ民族博物館ウェブサイト特設ページをご覧ください
https://nam.go.jp/exhibition/floor2/special/vienna2025/

関連イベント Event

開館5周年記念講演会
7/5土 10:00～10:45
本展出品協力館である、ベルリン国立博物館群民族学博物館のラース・クリスティアン・コッホ館長とアンリエット・ラヴォー・ヴレクール学芸員による、博物館や所蔵アイヌ・コレクション等の紹介を行います。

スペシャルギャラリートーク
10/25土 14:00～14:30
飯田茂雄氏（東京国立博物館 主任研究員）による展示資料や本展のみどころを紹介します。

ギャラリートーク
担当者が展示室でみどころを解説します。
7/6日、19土、21月・祝、27日
8/2土、23土、24日
9/13土、15月・祝、23火・祝、28日
10/5日、13月・祝、18土、26日
11/1土、3月・祝、15土、16日
各日14:00～14:30（※11/3は10:30～/14:00～の2回開催）

夜のギャラリートーク
8/9㈯、16㈯
各日16:15～16:45
担当者が展示室でみどころを解説します。

バックヤードツアー
10/4㈯ 14:00～15:00
担当者が博物館の裏側を案内します。

※イベントは変更となる場合があります。最新情報は当館ウェブサイトをご確認ください。

夏休みイベントウィーク

8月はご家族や親子で一緒に楽しめるイベントがもりだくさん！

おしゃべりギャラリートーク
学芸員と一緒に展示室を回って、アイヌ文化や博物館の楽しみ方を学ぼう。
8/9㈯、10日、11月・祝、13㈬、14㈭、15㈮、17日
各日13:30～14:00

はくぶつかんのうらがわツアー
館内をあちこち探検しながら、学芸員のおしごとを体験してみよう。
8/16㈯ 13:30～14:15

トゥレッポンのおさんぽ 特別版 トーハクくん、ユリノキちゃんが遊びにきたよ！
東京国立博物館公式キャラクターのトーハクくん、ユリノキちゃんがトゥレッポンとおさんぽするよ。
あいさつをしたり、一緒に写真を撮ったりできるよ。
8/15㈮、16㈯、17日 各日14:20～14:40

※全てのイベントは参加無料（ただし、ウポポイ入場料が必要）。詳しくは当館ウェブサイトをご覧ください。

国立アイヌ民族博物館　シアター新作公開のご案内

普段着のアイヌ

Fudangi no Ainu

OKI監督初映画作品

2025年4月26日より
上映中

※撮影中の風景

2025(令和7)年4月26日から当館で、映画『普段着のアイヌ』(監督：OKI)の上映が始まりました。
本作は、トンコリ奏者として国内外で活躍するOKIを監督に迎え制作した、国立アイヌ民族博物館開館以来初のシアター新作。天内重樹の狩猟、熊谷カネの料理、そして瀧口夕美のアイヌ語という主演者それぞれの生きがいをテーマに、今の時代を生きる「普段着のアイヌ」を映し出すドキュメンタリー作品です。

◆上映場所

国立アイヌ民族博物館 1階
シアター

◆上映時間

30分

◆上映スケジュール

▶18時閉館の場合
①11:30～ ②14:30～

▶20時閉館の場合
①11:30～ ②14:30～ ③17:30～

当館のシアター紹介ページに
リンクします

◆監督 Director

OKI

◆主演 Starring

天内重樹

熊谷カネ

瀧口夕美

メッセージ

Message

「アイヌのドキュメンタリーを撮るならやらせて欲しい」2018年、私はウポポイ開館準備で旭川を訪れていた佐々木館長に伝えました。館長はその言葉を覚えていてくれて新作ドキュメンタリーを任せてくれたのです。この作品は他者の視点ではなく、私というアイヌが“Made in Ainu”をモットーに構想を考え、撮影、編集、音楽まで手がけた初のドキュメンタリー映画です。アイヌ文化に関わる魅力的な登場人物が映画を味わいのある深い作品に導いてくれました。ご覧になってくださった方との間に共感が生まれることを願っています。

OKI KANO　オキ カノ

◆制 作：国立アイヌ民族博物館

国立アイヌ民族博物館の収蔵、展示資料をピックアップして紹介します。

博物館Pickup!

秋の恵み草木をうるおす（プラザ展示の木彫り熊）

当館の基本展示室・プラザ展示にて展示中の木彫り熊。札幌市在住の木彫家、荒木繁氏の作品です。

木彫り熊は、北海道の著名な土産品です。一般的には、サケをくわえた黒塗りの木彫り熊がよく知られていますが、ポーズや塗り、大きさなどの造形表現には豊富なバリエーションがあります。当時の盛況ぶりは、1970年代の観光雑誌に「道内で生産される木彫り熊は、年間約250万個、ザット15億円」と伝えられるほどで、北海道の一大土産品産業となっていたことがうかがえます。

北海道木彫り熊には、道南・八雲町の八雲熊彫、道北・旭川市から制作が広まったいわゆるアイヌの土産品としての木彫り熊の2つの系統があると考えられています。木彫り熊の制作者にはアイヌの職人も多く含まれており、当館では、アイヌの制作による木彫り熊資料を中心に、収集・保存に取り組んでいます。

制作者の荒木繁氏は、北海道アイヌ協会の優秀工芸師であり、長きにわたり生業として木彫り熊などの木彫制作を手がけてきた職人です。父・兄のあとを継いで道内外の物産展などで腕を磨き、現在では、木彫の講師として次世代の育成にも力を注いでいます。

本資料は、サケをくわえた素彫りの木彫り熊です。体躯はどっしりと、目には柔らかなまなざしがあり、たくましさとやさしさが感じられます。サケはまるまると太って大きく、頭から尾ビレまで、生き生きとした躍動感があります。毛流れの一本、サケのうろこの一枚まで丁寧に彫りあげられており、荒木氏の力強く繊細な作風がすみずみまで感じられます。鼻先や背中の一部、サケのヒレ部分には、材木の皮目に近い白っぽい部分と中心部分の色味の違いが巧みに生かされており、木彫の奥深さを味わえる作品です。

あなたの家にも、木彫り熊はありますか？私たちの身近な北海道の土産品から、アイヌ工芸の歴史や文化にぜひ関心を持っていただければ幸いです。

（アソシエイトフェロー　田村実咲）

『秋の恵み草木をうるおす』（荒木繁作）正面

『秋の恵み草木をうるおす』背面

見て→見て！園内↑サイン

ウポポイの園内サインをご紹介し、皆さまにより広くアイヌ語を知っていただくコーナーです！

8 イイエシカルンテプ　モニュメント

モニュメントは、アイヌ語で「イ（人）・イ（もの／人）・エシカルンテ（～に～を思い出させる）・プ（もの）」と表現しています。ある人物や出来事について、人びとに思いを馳せさせるという、モニュメントの機能に着目した表現です。

園内にはポーランドの民族学者ブロニスワフ・ピウスツキ（1866年～1918年）の胸像（モニュメント）があります。ピウスツキは、樺太や北海道で調査を行い、白老にも滞在しました。調査ではさまざまな生活の資料を収集し、蝋管での録音も残しています。毎年5月には、このモニュメントの前で顕彰行事が行われ、人びとがピウスツキについて考える機会となっています。

（研究主査　小林美紀）

Report

スペインのカタルーニャ州におけるアイヌ関連資料に関する調査

●調査研究プロジェクト：2023B01 スペインのカタルーニャ州におけるアイヌ関連資料の調査
2024B04 スペインのカタルーニャ州におけるアイヌ関連資料の追加調査
●研 究 メ ン バ ー：カサド・パルド・ケラール（代表者）、八幡巴絵、naakay/中井貴規

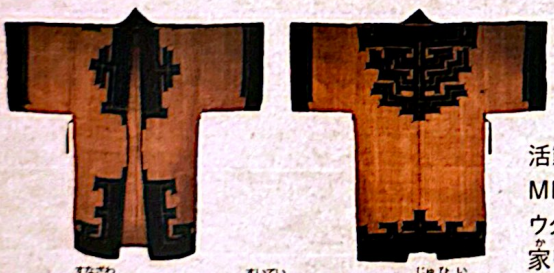
本調査研究の詳細はこちら

海外のアイヌ資料コレクション：把握されていないものもある

アイヌ関連資料のコレクションは、日本以外ではヨーロッパ、ロシア、北米に存在することが知られていますが、よく研究されているコレクションでも、まだわからない点が残っています。そして、あまり研究されていないコレクションもあります。
そのあまり知られていないコレクションの中には、スペインのカタルーニャ州にあるバルセロナ民族学博物館（Museu Etnològic de Barcelona, 以下「MEB」）のアイヌコレクションが含まれています。
ヨーゼフ・クライナーの「Ainu Collections in European Museums」に一部記載されていることを知り、本調査研究プロジェクトのメンバーが調査を開始したところ、カタルーニャにおけるアイヌ関連資料のコレクションがMEBのものだけでなく、MEBのコレクション構築にも関わった彫刻家エウダル・セラの個人コレクションや、カタルーニャの別の彫刻家アペル・フェノザの美術館所蔵の資料も含まれていることがわかりました。

カタルーニャのアイヌ関連資料コレクションの始まり：20世紀半ばの2人の彫刻家

エウダル・セラ・イ・グエイ（Eudald Serra i Güell）（1911年～2002年）は、1935年から1948年の間、日本に在留した彫刻家です。1945年より大阪でアメリカ占領軍の付属学校の教師をし、1947年にはアメリカ占領軍の任務で北海道の登別、白老、旭川を訪問しました。滞在中、出会った3人のアイヌ民族の頭像を作製し、訪れた場所の写真も撮影しました。また、いくつかの資料も収集しました。帰国後、1949年からバルセロナでMEBとのコラボレーションを始め、世界各地を訪れて資料を収集しました。その中には、アイヌのマキリやイクパスイもあります。
しかし、エウダル・セラの収集活動は、自分の個人コレクションやMEBのコレクションだけでなく、エウダル・セラの研究者である美術史家リカル・ブルの収集活動にも影響を与えています。


砂沢ベラモンコロ作と推定されるアットゥシ（樹皮衣）
リカル・ブル・イ・トゥルイ蔵、旧セラ個人コレクション

リカル・ブル・イ・トゥルイ（Ricard Bru i Turull）（1981年～）は美術史の博士号を持ち、19世紀と20世紀のカタルーニャ美術、ジャポニスム、カタルーニャとヨーロッパにおける日本美術の研究を専門としています。研究の一環として、エウダル・セラについて長年研究。セラの作品総目録と伝記を制作している人物として、エウダル・セラの個人コレクションのうち、アットゥシやセラ自身が撮影した写真などのアイヌ関連資料を所蔵しているほか、その他の収集資料で自分のコレクションを構築しています。

住吉平吉チシカ作の木彫り熊
リカル・ブル・イ・トゥルイ蔵

裏側に「アイヌ家チシカ作」の刻印

アペル・フェノザ・イ・フロレンサ（Apel·les Fenosa i Florensa）（1899年～1988年）は、カタルーニャの彫刻家でした。スペイン内戦後、フランスに亡命して、フランスで亡くなるまで活動していました。1966年、日本での個展をきっかけに来日し、北海道旅行で札幌、登別、白老を訪れました。白老コタンで「宮本エカシマトク」と食事した際にプレゼントされたイクパスイは、エル・ヴェンドレイ（El Vendrell）にあるアペル・フェノザ美術館に保存されています。

「宮本エカシマトク」のサインが入ったイクパスイ
アペル・フェノザ財団蔵

調査研究について

すべてのコレクションは、資料を収集した人びとと、収集地、製作者について物語っています。カタルーニャのコレクションは、特にフェノザが北海道を訪れた観光活動が進んでいた時期に、多くのヨーロッパのアイヌ資料コレクションよりも遅れて構築されました。
本調査研究は、
- このアイヌ資料コレクションの形成史を明らかにする
- 北海道のアイヌ観光における、一般旅行客とは違う属性－例えば研究者やアーティストなど－の受け入れ態勢の実態を明らかにする
- 地域史や資料の情報等を地域コミュニティへ還元する

という3点を目的として行いました。
2023年度には、スペインのカタルーニャ州のアイヌ関連資料のリスト化と、その一次資料と二次資料の特定を目的とした調査を行い、当館の研究紀要に研究ノートを掲載しました。2024年度には、資料の地域性や作者などの詳細を明らかにするための追加調査を行いました。今後、この成果を論文や展示など、さまざまな形で発表していきたいと考えています。

（研究員　カサド・パルド・ケラール）

国立アイヌ民族博物館からのお知らせ

令和7年度プンカラ協働展示 Punkar network×TOKYO 2025
国立アイヌ民族博物館共催 特別展

アイヌモシリ ―アイヌの世界と多様な文化―

The Ainu World : Regional Voices and Cultural Diversity

【会場】國學院大學博物館（東京都渋谷区東4丁目10-28）
【会期】2025（令和7）年6月28日（土）～9月23日（火・祝）
東休館：毎週月曜日（祝日除く）及び8月12日～21日
【主催】國學院大學博物館・国立アイヌ民族博物館
【協力】公益財団法人石水博物館・國學院大學北海道短期大学部
【後援】公益財団法人北海道アイヌ協会

この展覧会は、国立アイヌ民族博物館開館5周年を記念し、國學院大學と共同で開催する特別展です。アイヌ民族の豊かな文化を、アイヌ語、ユカラ（英雄叙事詩）、イヨマンテ（クマの霊送り儀礼）、工芸作品などを通して紹介します。
展示では江戸時代以降の地誌や民族資料からアイヌ文化の多様性を概観し、松浦武四郎の蝦夷地踏査記録や和人の横暴を描いた作品なども展示。日本の近代化過程での同化政策による文化伝承の困難や、それでも失われることなく続く伝統文化復興の現状を通して、多文化共生について考える機会を提供します。

ウポポイこんなとこ17

ウポポイ堪能モデルコース

見どころいっぱいのウポポイ。20種類以上のプログラムや博物館など「どこを回ろうかな」と迷う方も多いのでは？お子様と一緒に来場される方におすすめのコースを紹介します。

①9:00 国立アイヌ民族博物館 見学
（所要時間 約60分）

「ことば」「世界」「くらし」「歴史」「しごと」「交流」6つのテーマに沿って、映像や模型、実物資料を展示。

②10:00 体験交流ホール シノッ
（所要時間 約20分）

北海道の大自然を背景に、各地で伝えられてきた歌や踊りの公演。

③10:30 コタン広場 ウパシクマ
（所要時間 約15分）

コタンでの暮らしの紹介と、歌や踊りの公演。家、舟、狩猟具、地名など、各回異なるテーマを取り上げます。

④11:30 ポロ チセ ネウサㇻアン ロ
（所要時間 約15分）

受け継がれてきた物語や叙情歌（気持ちを表現した歌）の口演。

⑤14:00 体験学習館別館 アㇰシノッ
（所要時間 約10分）

弓矢体験。弓と矢は職員の手作りです。

⑥15:00 シノッ チセ ピリカ！ピンゴ アキ ロ
（所要時間 約30分）

ピンゴで遊びながらアイヌ語を体験。

⑦16:00 工房 はじめてのムックリ
（所要時間 約10分）

持ち方から音の変え方までを練習するムックリ（口琴）の演奏体験。

他にも「アイヌ文化深掘りコース」「アイヌの世界探訪コース」もあります。詳しくはウポポイ公式ウェブサイトをご覧ください。

ウアイヌコロ宣言

当財団は、多様な価値観が共生し、アイヌの人々の民族としての誇りが尊重される共生社会の実現を目指すとともに、個人や民族の尊厳を損なうレイシャル・ハラスメント※を許さない旨として、ウアイヌコロ宣言を表明しました。

※民族や人種、国籍を理由に暴言、侮辱及び差別的言動を行い個人又は集団の尊厳を害すること

レイシャル・ハラスメント対策「ウアイヌコロ宣言」 https://www.ff-ainu.or.jp/web/overview/details/post_15.html

NATIONAL AINU MUSEUM 国立アイヌ民族博物館
https://nam.go.jp/

ウポポイ 民族共生象徴空間

■お問い合わせ
公益財団法人 アイヌ民族文化財団（ウポポイ内）
住 所：〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番2号
電 話：0144-82-3914 FAX：0144-82-3685
メール：info@ainu-upopoy.jp

プログラム等の詳しい情報はウポポイウェブサイトをご覧ください。
ウポポイ 検索
https://ainu-upopoy.jp/

※アヌアヌは、アイヌ語で「もしもし」の意味です

国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」第20号 編集・発行：国立アイヌ民族博物館 2025年6月発行 印刷：TOPPAN株式会社 ISSN 2435-8207